

## 教育ボランティアのススメ その3 『教育ボランティア活動のある大学生活』

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター長  
教育ボランティア委員会委員長

田 中 勝

人生は、選択や決断の連続と言ってよいかもしれません。

「子どもが大好き」、「中学のときにお世話になった〇〇先生のようにになりたいから」、「△△を教えたい」、「子どもと一緒に成長したい」と考えて山梨大学教育学部に入学した方も多いでしょう。大学生活4年間を皆さんはどのように過ごしますか？ 4年間の中に、教育ボランティア活動の「ある生活」と「ない生活」とが選べます。決めるのは「あなた」です。

私事になりますが、学生時代に今で言うところのインターンシップを二度経験しました。一度目は「オープンデスク制度」を利用して、夏休みの間、愛知県内の企業で実務に携わりました。「本物」に触れたときの感動は今も忘れられません。二度目は愛知県庁での「実務訓練」でした。私の母校は大学としては珍しく3学期制で、4年生の3学期（1～2月）は企業・官公庁等でのインターンシップが義務づけられていました。大学院に進学する前に全員に実社会を経験させ、実践力を養うと共に、幅広い視野を身につけさせようというものでした。いずれも35年以上前の、昔話です。

山梨大学教職大学院でも理論と実践の往還を重視した学びが行われていますが、教員を目指す皆さんには学校教育の「現場」（教育ボランティア活動の受入先）をよく見てきてほしいと思います。学校には子どもたちがいて、先生方がいて、そこに子どもたちと年齢の近い「教育ボランティア学生」がチーム学校の一員として加わります。ごく普通の学校生活が営まれているときもあれば、ハプニングが起きることもあります。昨日とは異なる今日があり、変化の連続する毎日です。だからこそ学校現場では「生きた学び」ができると私は思っています。子どもの成長を支え見守りながら自らも成長できるはずで、教育実習前後には不安や課題解決の糸口が見えたり、教員採用試験前には先生方から心強いアドバイスをいただけたりと、教育ボランティア活動は教員を目指す皆さんにとって糧となるでしょう。

つい最近、私の所属する系の恒例行事のなかで、教育ボランティアについて次のようなやりとりがありました。Aさんは4月から3年生となり教育実習に向けた準備が始まります。Bさんは教員採用試験に合格して4月から山梨県内で教壇に立つ予定です。

Aさん「教育ボランティアに参加したことがないんですが、3年生は教育ボランティアに行っている時間はありますか？」

Bさん「あるよ。でも、まわりが教育ボランティアに行くから自分も行くというのはダメだと思う。なぜ行くのか、何のために活動するのか、目的をはっきりさせることが大事。」

先輩のBさんは甲州市内の小学校で教育ボランティアに参加しました。Bさんのアドバイスは的確で、説得力があり、教育ボランティア活動での学びが教員採用試験の結果にもつながったのだと思います。

皆さんには早い時期から、できることなら1年生から4年生まで「学校現場」や「教育現場」に接してほしいと思います。参加すればよいというものではなく、目的意識をもつことで次のステップにつながる豊かな学びとなります。令和元年度からは教育ボランティアのアドバンスドコースとして「地域学習アシスト事業」も始まり、教育ボランティア活動を経験した学部生・大学院生・専攻科生が学部教員とチームを編成して山梨県内の学校現場の課題解決にあたっています。

あなたも教育ボランティア活動を4年間の大学生活のなかに取り入れてみませんか？